

テンス・アスペクト

木部 暢子
沖 裕子
井上 文子

A 解説

1. テンス・アスペクトとは

(1.1) テンスとは

テンスとは「出来事を，発話時を基準とする時間軸の上にもう位置づけるか」といった，出来事の外的時間に関する文法的カテゴリーのことで，発話時を<現在>，それ以前を<過去>，それ以後を<未来>と呼ぶ。

過去——現在（発話時）——未来

現代日本標準語（以下標準語と略す）では，一般にイク(行く)，クル(来る)，イル(居る)のようなル形が<現在>と<未来>を表し，イッタ(行った)，キタ(来た)，イタ(居た)のようなタ形が<過去>を表す。

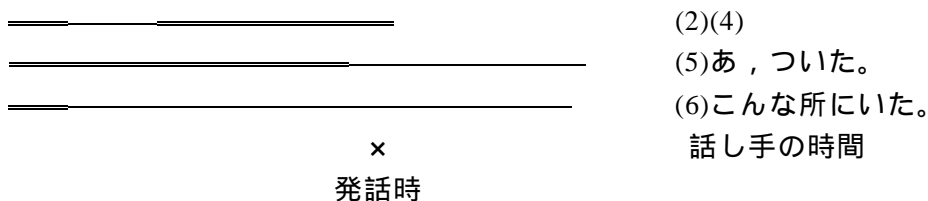
- (1)明日，友だちの家へ遊びに行く。（未来）
- (2)昨日，友だちの家へ遊びに行った。（過去）
- (3)今，友だちの家にいる。（現在）
- (4)昨日は友だちの家にあった。（過去）

しかし，標準語のタは<過去>という概念では説明しきれない用法も持っている。例えば，次のタは発話時における事態の発生や発見を表す。

- (5)（電気がつかないかと待っていたところ）あ，ついた。（事態の発生）
- (6)（太郎を探していて）あ，こんな所にいた。（事態の発見）

このことから，標準語のタは，出来事の成立時点が<過去>であるというよりも，話し手が出来事の情報を獲得するに至った体験の時点が<過去>であることを表すと考えた方がよさそうである。

図 1

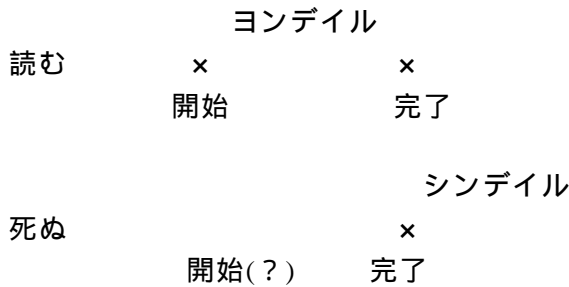


(1.2) アスペクトとは

これに対しアスペクトとは「出来事を，開始から終了までひとまとまりのこととして捉えるか，それとも開始・動作（変化）・完了・結果といった時間の流れに沿って段階的に捉え

るか」といった、出来事の内的時間に関する文法的カテゴリーのことで、ひとまとまりのこととして捉える捉え方を<完成相>、段階的に捉える捉え方を<継続相>という。標準語ではヨム(読む)、シヌ(死ぬ)のようなル形が<完成相>を表し、ヨンデイル(読んでいる)、シンデイル(死んでいる)のようなテイル形が<継続相>を表す。

図 2



この他に「～始める」「～終わる」「～続ける」などの補助動詞によって出来事の段階を表すことがあるが、これらは「始める」「終わる」「続ける」などの動詞の持つアスペクトの意味を利用した表現であって、文法的には二次的アスペクトと位置づけられる。

また、テアルもアスペクトを表す。ただしテアルは使用に大きな制限があり、他動詞のうち無情物を対象物とするもの(3に挙げる(b0)主体動作客体変化動詞)にしか接続しない。また対象物が「を」ではなく「が」で表示される。

- (7) 壁に絵が掛けてある。
- (8)*壁に絵を掛けてある。(対象物が「を」で表示される)
- (9)*壁に絵が掛かってある。(自動詞)
- (10)*花子がなぐってある。(有情物を対象物とする他動詞)

これらのことを考えると、テアルはアスペクトを表す文法形式というよりも、変化の結果としての客体がそこに存在するという意味を表す存在動詞と考える方がよい。

(1.3)テンスとアスペクトの関係

以上のように、標準語では「ル：タ」が出来事の外的時間を規定し、「ル：テイル」が出来事の内的時間を規定し、この両者を組み合わせることによって、表1のような時間に関する表現を作り上げている。

表 1

	完成相	継続相
非過去	ヨム	ヨンデイル
過去	ヨンダ	ヨンデイタ

表1の「ヨム」はテンス<非過去>、アスペクト<完成相>を表し、「ヨンデイル」はテンス<非過去>、アスペクト<継続相>を表す。また、ヨンダはテンス<過去>、アスペクト<完成相>を、ヨンデイタはテンス<過去>、アスペクト<継続相>を表す。このように、テンスとアスペクトは一体となって時間表現を作り上げている。

2. 日本方言のテンス・アスペクト

日本語諸方言には標準語とは異なるテンス・アスペクト体系を持つ方言が多い。代表的なものを挙げておこう。

(a) 標準語のテンス・アスペクト体系

	完成相	継続相
非過去	書ク	書イテイル
過去	書イタ	書イテイタ

(b) 山形県鶴岡方言のテンス・アスペクト体系（渋谷勝己1994による）

	完成相	継続相
非過去	書グ	書イッダ 書イデル(注)
過去	書イダ	書イッダ 書イデダ

(注)恒常性の度合いが高い場合には書イデルが用いられる。

私は毎朝手紙を カイデル / ?カイツダ

私は今手紙を ??カイデル / カイツダ

(c) 愛媛県宇和島方言のテンス・アスペクト体系（工藤真由美1995による）

	完成相	継続相	
		動作継続	結果継続
非過去	書ク	書キヨル	書イトル
過去	書イタ	書キヨッタ	書イトッタ

(d) 沖縄県今帰仁方言のテンス・アスペクト体系（狩俣・島袋1989による）

変化動詞（行く）

	完成相	継続相		
		進行相	継続相	痕跡相
非過去	イチュン(注1)	イジュン(注2)	イジェン(注3)	
過去	イジャン	イジュイタン	イジータン	イジェータン

(注1) ぷっぷーヤ メーニち ナグーかてィ イチュン（祖父は毎日名護に行く）

ぷっぷーヤ ナマ ヤーち イチュン（祖父は今家に行きつつある）

(注2) 変化動詞の場合，継続相は結果の継続を表す。

ぷっぷーヤ パルーち イジュン（祖父はでかけていて，いま畑にいる）

(注3) ぷっぷーヤ パルーち イジェン（祖父は畑に行ったようすがある。いま畑にいるかどうかはとわない）

動作動詞（飲む）

	完成相	継続相		
		進行相	継続相	痕跡相
非過去	ヌミン(注4)	ヌドゥン(注5)	ヌデン(注6)	
過去	ヌダン	ヌミータン	ヌドゥイタン	ヌデータン

(注4) 又くとウイヌ サキーヤ アチャー ヌミン（残っている酒は明日飲む）

ヌー ヌミガ。サキー ヌミン（何を飲んでいるの？ 酒を飲んでいる）

(注5)動作動詞の場合，継続相は動作の継続を表す。

ヌー ヌドゥイガ（何を飲んでいるの） サキー ヌドゥン（酒を飲んでいる）

(注6)チャッチャーガ サキー ヌデン（父が酒を飲んである）

方言のアスペクトは，大きく二項対立型の東日本と三項対立型の西日本に分けられる。二項対立型の東日本では，基本的に「ル形：テイル形」によって<完成相>と<継続相>が区別される。テイル形の意味は，「開ける」「歩く」のような<主体動作動詞>では<動作の継続>の意味になり，「開く」「死ぬ」のような<主体変化動詞>では<結果の継続>の意味になる。

(11)太郎が窓を開けている。（主体動作動詞：動作の継続）

(12)窓が開いている。（主体変化動詞：結果の継続）

そのため，東日本方言では動詞の意味記述がアスペクト研究の上で重要なウェイトを占めることになる。

三項対立型の西日本では，「ル形：ヨル形：トル形」によって<完成相>，<動作の継続>，<結果の継続>の三つが区別される（地域によりシヨー・シヨール，シトー・シチョル・シチヨーなどの語形のバリエーションがある）。

(13a)太郎が窓を開けヨル。（動作の継続）

(13b)太郎が窓を開けトル。（結果の継続）

(14a)窓が開きヨル。（動作の継続）

(14b)窓が開いトル。（結果の継続）

従って，西日本方言では動詞の分類が東日本ほど重要な位置を占めない。ただし，動詞によってはヨル形・トル形のアスペクト的対立が中和され，ヨル形・トル形がともに<動作の継続>を表すことがある。

(15)赤ちゃんが泣きヨル／泣いトル。（動作の継続）

(16)雨が降りヨル／降ットル。（動作の継続）

どのような動詞でヨル・トルの中和が起きるかは，地域により差がある。また，中和が起きると，今度はヨル形とトル形がムードの差として意識されるようになる。

(17a)目覚まし時計が鳴りヨル。（目撃性）

(17b)どこかで時計が鳴ットル。（非目撃性）

このような「ヨル形：トル形」の中和の実態を明らかにするためには，やはり西日本方言でも動詞の意味記述をしっかりとしなければならない。

東北方言では存在動詞「いる」において，イルとイダの両形が非過去を表す。

(18)お父さん イルガ？／イダガ？（お父さんいるか？）

ん，イル／イダ（うん，いる）

恒常性が高い場合にはイル形が現れやすく，低い場合にはイダ形が現れやすいという傾向がある。

(19a)太郎はいつも家に イル／??イダ

(19b)（太郎を探していて）あっ，??イル／イダ

アスペクト表現もこれに準じて，テル形・ツダ形（テイダの変化形）の両方が<継続相現

在>を表し，恒常性の度合いが高い場合には「書イデル」が用いられ，低い場合には「書イッダ」が用いられる。

3. 調査の着眼点

ある方言のテンス・アスペクト体系を明らかにするためには，いろいろな種類の動詞について，いろいろな種類のテンス・アスペクト的表現を調べることが必要である。以下，工藤真由美2000・2001に従って，どのような項目を調査するのがよいか，挙げてみよう（ただし工藤2000・2001は西日本方言を主な対象として調査項目が立てられている。その点の注意が必要である）。

まず，動詞については，工藤2000・2001の分類は次のようになっている。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| (a1) 主体変化動詞（無意志的自動詞） | 死ぬ，開く，乾く，消える，落ちる…… |
| (a2) 主体変化動詞（意志的自動詞） | 行く，来る，座る，立つ，入る，出る…… |
| (b0) 主体動作客体変化動詞 | 開ける，干す，消す，作る，切る…… |
| (c1) 主体動作動詞（他動詞） | 飲む，叩く，読む，見る，言う…… |
| (c2) 主体動作動詞（意志的自動詞） | 遊ぶ，歩く，あばれる，飛ぶ…… |
| (c3) 主体動作動詞（無意志的自動詞） | 降る，（風が）吹く，泣く，照る…… |
| (d0) 心理動詞 | 思う，怒る，喜ぶ，嫌う…… |
| (e0) 存在動詞 | 花瓶がある，運動会がある，いる…… |
| (f0) 形容詞 | 赤い，悪い，寂しい，静かだ…… |
| (g0) 名詞 | 小学生だ，アサガオだ…… |

この分類のそれぞれから満遍なく動詞を選んで調査するのがよい。

次に，テンス・アスペクトの種類については，少なくとも次のようなものを押さえて置く必要がある。

テンス：現在・過去・未来

アスペクト：完成相

継続相（変化達成直前・動作開始直前・変化過程継続・動作過程継続・変化達成後の客体結果・主体結果・動作完了後の痕跡・反復習慣・一時的状態・恒常的特性・心理状態継続）

これを組み合わせて調査票を作成し，調査を行なって次のようなことを明らかにする。

- (A)テンス・アスペクトを表す語形にどのようなものがあるか。
- (B)それらはどのような意味を表し，どのような体系を作っているか。
- (C)動詞の種類によりそれらの現れ方や意味に偏りがあるか。
- (D)偏りがある場合，それを基準にして動詞を分類するとどのようになるか。

これで，その方言のテンス・アスペクト体系は一通り記述することができる。研究の次の段階としては，

(E)テンス・アスペクト形式がムードを表すことがないか。また，ムードを表す語との共起関係に特別な制約などがないか。

(F)テンス・アスペクト表現の歴史的推移。

などがテーマになる。(E)については，先に西日本のヨル・トルがムードを表す例を挙げたが，関西のヨル（卑罵表現）や東北のテタ（一時性）など，アスペクト形式がムードや待遇

を表すといった現象が各地に見られる。(F)では現在における動態研究ばかりでなく、存在動詞「いる」「おる」「ある」がいかんしてアスペクトを表すようになったかといった文法化の問題も含ませたい。

4. 研究の現状

テンス・アスペクトの研究は、「動詞＋テイル」の意味が動詞により進行態になったり結果態になったりするということを指摘した金田一春彦(1950)に始まる。その後、金田一(1950)への反論という形で奥田靖雄(1977)が書かれ、「スル・シテイル・シタ・シテイタ」という体系性を踏まえた研究へと展開していく。

金田一の最初の指摘にもあるとおり、テンス・アスペクト表現は動詞が本来的に持っている時間性と深く結びついており、動詞の意味分析と無関係には論じることができない。また、タ形やテイル形がモダリティーを表す場合があることを考えると、モダリティーとも無関係には論じることができない。このような事情から、標準語のテンス・アスペクトに関する研究は、動詞研究、モダリティー研究を巻き込んで大きく発展してきた。

一方、方言のテンス・アスペクト研究は、辰浜(久野)マリ子(1977)、工藤真由美(1983)に始まる。いずれもヨル・トル対立を持つ西日本方言を対象としたもので、アスペクト表現が東日本と西日本とで体系的に大きく異なることを明らかにした。工藤2000・2001では、さらに西日本に限らず全国の方言のテンス・アスペクトを比較する試みがなされ、これにより方言のテンス・アスペクト研究は飛躍的に進展しつつある。

5. 発展

テンス・アスペクトは、言語体系の最も基本的な部分を構成している。文法的、語彙的手段のいずれかを問わなければ、テンス・アスペクトをまったく表現しえない自然言語というものはないと考えられる。

テンス・アスペクトが当該方言でどのような形式によって担われ、どのような意味体系を構成しているか共時的に明らかにすることは、言語研究の重要な課題である。それとともに各方言の分岐と統合の過程を解明することによって、古層において日本方言がどのような分布をしていたのか、あるいは、日本祖語といえる一つの姿があるのかどうか、といった点にも迫る可能性をもったトピックであるといえる。社会の近代化とともに分析的な表現が要求され、中世以降文法化が引き起こされた比較的新しい変化である条件表現などに照らして考えれば、テンス・アスペクトの研究的価値は自ずから明らかであろう。

研究の現状は、述べてきたとおりであるが、今後は次のような課題が残されている。

これまで、西日本方言、東日本方言と二分してテンス・アスペクトが捉えられてきたが、今後は見直しが必要であろう。琉球方言、八丈島方言、東北方言などをみると、必ずしも、東西型の分布ではない可能性は濃い。まずは、これらの地域の記述が必要である。また、西日本方言の中でも、近畿中央部の複雑な実態と変化過程の解明は、進んではない。近畿中央部にはテイル一形型などもみられ、さらには、ヨル・トルが意味的变化を起こしているとともに、共通語と同形の～テオク・～カケルがアスペクト的な意味変化を起こしていること

も報告されている（井上文子1998，沖裕子1996,2000等参照）。これらは、西日本方言型から変化したものであると指摘されているが、いずれにしても微細な地域差も含めた共時態の記述が必要である。

テンス・アスペクトの理論的な研究に関しても、方言研究の点から見直しをはかる余地がある。金田一は、/ -tei/と/ -ru/(異形態に -u) を切り出すが、奥田、工藤は、「スル」「シテイル」「シタ」「シテイタ」を、それぞれ意味を担う最小の単位として考える。前者は、形態素分析を行う立場であり、後者は、いわば語彙素を立てる立場にあたる。両者いずれが妥当であるか本格的な議論はなされていない。これに、西日本方言型「sijoru」「sitoru」のような語彙的に担われるアスペクト体系を考慮に入れると、方言の観点から日本語の形態・意味論を再考する必要があるであろう。

6. 文献

- テンス・アスペクトに関する文献は多い。主なものを挙げておく。
- 井上文子(1998)『日本語方言アスペクトの動態 - 存在型表現形式に焦点をあてて - 』（秋山書店）
- 椋垣実(1962)『近畿方言の総合的研究』三省堂
- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって」『ことばの研究・序説』（むぎ書房）
- 沖裕子1996「アスペクト形式「しかける・しておく」の意味の東西差 気づかれにくい方言について」『日本語研究諸領域の視点 上巻』明治書院
- 沖裕子2000「アスペクトからみた動詞分類再考 「気づかれにくい方言」にふれて」『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』信州大学人文学部
- 狩俣繁久・島袋幸子(1989)「今帰仁方言の動詞の文法的なカテゴリー - アスペクトとヴォイス - 」『ことばの科学』2(むぎ書房)
- 金水敏(2000)「時の表現」『日本語の文法』2(岩波書店)
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』（むぎ書房）
- 金田一春彦(1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』（むぎ書房）
- 工藤真由美(1983)「宇和島方言のアスペクト」『国文学解釈と鑑賞』48-6
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』（ひつじ書房）
- 工藤真由美(2001)「アスペクト体系の生成と進化 - 西日本諸方言を中心に - 」『ことばの科学』10(むぎ書房)
- 工藤真由美代表(2000)『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』科研費成果報告書
- 工藤真由美代表(2001)『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』科研費成果報告書
- 渋谷勝己(1994)「鶴岡方言のテンスとアスペクト」国立国語研究所報告『鶴岡方言の記述的研究』（秀英出版）
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』（むぎ書房）
- 鈴木泰(1992)『古代日本語動詞のテンス・アスペクト - 源氏物語の分析 - 』（ひつじ書房）

テンス・アスペクト

高橋太郎(1985)『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』(秀英出版)

辰浜マリ子(1977)「相生方言のアスペクト - 「居る」「て居る」について - 」『都大論究』14

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味』(くろしお出版)

森田良行(1994)『動詞の意味論的文法研究』(明治書院)

森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』(明治書院)

『月刊言語』特集号(2001)「日本語のテンスとアスペクト」『月刊言語』30-13(大修館書店)

B 項目

a1 主体変化動詞（無意志自動詞）

a1-01 「死ぬ」

a1-01-01 テンス現在

a1-01-01-11【変化達成直前】（死ぬ直前）金魚が死にそうだ。

a1-01-01-21【変化過程継続】（金魚がだんだん弱ってきているのを見て）金魚が死につつある。

a1-01-01-31【主体結果】（金魚が浮いているのを見て）金魚が死んでいる。

a1-01-01-51【反復習慣】（この頃は交通事故で）毎日100人ずつ人が死んでいる。

a1-01-02 テンス過去

a1-01-02-11【変化達成直前】（金魚が苦しそうにしていたのを思い出して）あの時は金魚が死にかけていた。

a1-01-02-31【主体結果】（金魚が浮いて動かなかったのを思い出して）金魚が死んでいた。

a1-01-02-51【反復習慣】（当時の交通事故死の話をしながら）あの頃は毎日人が100人ずつ死んでいた。

a1-01-02-01【完成相】昨日うちで飼っている金魚が死んだ。

a1-01-03 テンス未来

a1-01-03-11【変化達成直前】（金魚の様子を見て）明日になったら金魚は死にかけているだろう。

a1-01-03-31【主体結果】（金魚が浮いて動かないのを想像して）明日になったら金魚は死んでいるだろう。

a1-01-03-01【完成相】（金魚の様子を見て）明日になったら金魚は死ぬだろう。

a1-02 「開く」

a1-02-01 テンス現在

a1-02-01-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっているが、開きそうな気配だ）幕が今にも開こうとしている。

a1-02-01-21【変化過程継続】（幕が上がって行く途中）幕が開きつつある。

a1-02-01-31【主体結果】（幕は完全に開いた状態）幕が開いている。

a1-02-01-51【反復習慣】この店は毎朝9時に開いている。

a1-02-02 テンス過去

a1-02-02-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっていたいが、開きそうな気配だった）幕が開こうとしていた。

a1-02-02-21【変化過程継続】（幕が次第に上がっていくのを見たのを思い出して）幕が開きつつあった。

a1-02-02-31【主体結果】（幕が完全に上がっていたのを思い出して）幕が開いていた。

a1-02-02-51【反復習慣】あの頃この店は毎朝9時に開いていた。

テンス・アスペクト

a1-02-02-01【完成相】あの店は昨日は10時に開いた。

a1-02-03 テンス未来

a1-02-03-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっているが、今にも開きそうなのを想像して、会場に着いた時には）幕が開こうとしているだろう。

a1-02-03-21【変化過程継続】（幕が次第に上がっていくのを想像して、会場に着いた時には）幕があきつつあるだろう。

a1-02-03-31【主体結果】（幕が完全に上がっているのを想像して、会場に着いた時には）幕が開いているだろう。

a1-02-03-01【完成相】この店は明日は10時に開く。

a2 主体変化動詞（意志的自動詞）

a2-01「行く」

a2-01-01 テンス現在

a2-01-01-11【変化達成直前】（太郎がカバンを持って玄関を出ようとしている）太郎が学校へ行こうとしている。

a2-01-01-21【変化過程継続】（どこへ行くの？）学校へ行く所だ。

a2-01-01-31【主体結果】（太郎はどこ？）太郎は学校へ行っている。

a2-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日学校へ行っている。

a2-01-02 テンス過去

a2-01-02-11【変化達成直前】（太郎がカバンを持って玄関を出ようとしていたのを思い出して）太郎は学校へ行こうとしていた。

a2-01-02-21【変化過程継続】（太郎が学校への道を歩いていたのを思い出して）太郎は学校へ行きつつあった。

a2-01-02-31【主体結果】（太郎が学校にいたのを思い出して）太郎は学校へ行っていた。

a2-01-02-51【反復習慣】（太郎が毎日学校へ通っていたことを話題にして）毎日学校へ行っていた。

a2-01-02-01【完成相】太郎は昨日映画を見に行った。

a2-01-03 テンス未来

a2-01-03-21【変化過程継続】（太郎が学校への道を歩いているのを想像して）9時には学校へ行きつつあるだろう。

a2-01-03-31【主体結果】（太郎が学校にいるのを想像して）9時には学校に行っているだろう。

a2-01-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日学校へ行く。

a2-01-03-01【完成相】太郎は明日学校へ行く。

a2-02「来る」

a2-02-01 テンス現在

a2-02-01-11【変化達成直前】（太郎が立ち上がって歩き出そうとしている）太郎がこっちへ来ようとしている。

a2-02-01-21【変化過程継続】（太郎はこちらへ向かう途中である）太郎は今こっちへ来る途

中だ。

a2-02-01-31【主体結果】(太郎はここにいる)太郎が来ている。

a2-02-01-51【反復習慣】太郎は毎日うちに来る。

a2-02-02 テンス過去

a2-02-02-11【変化達成直前】(太郎がこっちへ来る素振りを見せていたのを思い出して)太郎がこっちへ来ようとしていた。

a2-02-02-21【変化過程継続】(太郎がこっちに歩いて来ていたのを思い出して)太郎がこっちへ来つつあった。

a2-02-02-31【主体結果】(太郎がうちにいたのを思い出して)太郎が来ていた。

a2-02-02-51【反復習慣】あの頃太郎は毎日うちに来ていた。

a2-02-02-01【完成相】昨日太郎がうちに来た。

a2-02-03 テンス未来

a2-02-03-21【変化過程継続】(太郎がうちに向かっているのを想像して)帰った時には太郎はうちに来つつあるだろう。

a2-02-03-31【主体結果】(太郎がうちにいるのを想像して)帰った時には太郎が来ているだろう。

a2-02-03-01【完成相】明日太郎がうちに来る。

b0 主体動作客体変化動詞

b0-01「開ける」

b0-01-01 テンス現在

b0-01-01-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけたところ)太郎が窓を開けようとしている。

b0-01-01-22【動作過程継続】(窓が次第に動いている)太郎が窓を開けつつある。

b0-01-01-32【客体結果】(空気を入れ換えるために太郎が窓を開け放した)太郎が窓を開けている。

b0-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日6時に窓を開けている。

b0-01-02 テンス過去

b0-01-02-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけたのを思い出して)太郎が窓を開けようとしていた。

b0-01-02-22【動作過程継続】(窓が開きつつあったのを思い出して)太郎が窓を開けていた。

b0-01-02-32【客体結果】(太郎が窓を開け放していたのを思い出して)太郎が窓を開けていた。

b0-01-02-51【反復習慣】(太郎が毎日6時に窓を開けることを話題にして)太郎はあの頃6時に窓を開けていた。

b0-01-02-01【完成相】太郎は昨日6時に窓を開けた。

b0-01-03 テンス未来

b0-01-03-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけているのを想像して)家に帰った時には太郎が窓を開けようとしているだろう。

テンス・アスペクト

b0-01-03-22【動作過程継続】（窓が開きつつあるのを想像して）家に帰った時には太郎が窓を開けているだろう。

b0-01-03-32【客体結果】（太郎が窓を開けてしまっているのを想像して）帰った時には太郎が窓を開けているだろう。

b0-01-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日6時に窓を開ける。

b0-01-03-01【完成相】太郎は明日6時に窓を開ける。

b0-02「消す」

b0-02-01 テンス現在

b0-02-01-12【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっている）生徒が黒板を消そうとしている。

b0-02-01-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中）生徒が黒板を消している。

b0-02-01-32【客体結果】（黒板がきれいになっている）生徒が黒板を消し終わっている。

b0-02-01-51【反復習慣】今週は太郎が毎日黒板を消している。

b0-02-02 テンス過去

b0-02-02-02【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっていたのを思い出して）生徒が黒板を消そうとしていた。

b0-02-02-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中であつたのを思い出して）生徒が黒板を消していた。

b0-02-02-32【客体結果】（黒板がきれいになっていたのを思い出して）生徒が黒板を消していた。

b0-02-02-51【反復習慣】小学校のころは太郎が毎日黒板を消していた。

b0-02-02-01【完成相】昨日は太郎が黒板を消した。

b0-02-03 テンス未来

b0-02-03-12【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっているのを想像して）生徒が黒板を消そうとしているだろう。

b0-02-03-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中であるのを想像して）生徒が黒板を消しているだろう。

b0-02-03-32【客体結果】（生徒が黒板を消して、黒板がきれいになっているのを想像して）生徒が黒板を消しているだろう。

b0-02-03-51【反復習慣】これから毎日太郎が黒板を消すだろう。

b0-02-03-01【完成相】明日は太郎が黒板を消す。

c1 主体動作動詞（他動詞）

c1-01「飲む」

c1-01-01 テンス現在

c1-01-01-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出したのを見て）お父さんがビールを飲もうとしている。

c1-01-01-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中）お父さんがビールを飲んでいる。

c1-01-01-41【痕跡】（お父さんの顔が赤くなっている）お父さんがビールを飲んでいる。

テンス・アスペクト

c1-01-01-51【反復習慣】お父さんは毎日ビールを飲んでいる。

c1-01-02 テンス過去

c1-01-02-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出したのを思い出して）お父さんがビールを飲もうとしていた。

c1-01-02-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中だったのを思い出して）お父さんがビールを飲んでいてた。

c1-01-02-41【痕跡】（顔が赤かったのを思い出して）お父さんはまたビールを飲んでいてた。

c1-01-02-51【反復習慣】お父さんはあの頃毎日ビールを飲んでいてた。

c1-01-02-01【完成相】お父さんは夕食の時ビールを飲んだ。

c1-01-03 テンス未来

c1-01-03-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出すのを想像して）帰った時にはお父さんがビールを飲もうとしているだろう。

c1-01-03-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中なのを想像して）帰った時にはお父さんがビールを飲んでいるだろう。

c1-01-03-41【痕跡】（飲み終わっているのを想像して）帰った時にはお父さんはビールを飲んでいるだろう。

c1-01-03-51【反復習慣】（病気が治ったので）お父さんはこれから毎日ビールを飲むだろう。

c1-01-03-01【完成相】お父さんは夕食の時ビールを飲むだろう。

c1-02「叩く」

c1-02-01 テンス現在

c1-02-01-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうにしている）次郎が今にも太郎を叩こうとしている。

c1-02-01-22【動作過程継続】（叩いている最中）次郎が太郎を叩いている。

c1-02-01-41【痕跡】（太郎の顔に痣が出来ている）次郎が太郎を叩いたのだ。

c1-02-01-51【反復習慣】次郎はいつも太郎を叩いている。

c1-02-02 テンス過去

c1-02-02-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうだったのを思い出して）次郎が太郎を叩こうとしていた。

c1-02-02-22【動作過程継続】（叩いている最中であつたのを思い出して）次郎が太郎を叩いていた。

c1-02-02-41【痕跡】（太郎の顔に痣が出来ていたのを思い出して）次郎がまた太郎を叩いたのだ。

c1-02-02-51【反復習慣】次郎は毎日太郎を叩いていた。

c1-02-02-01【完成相】次郎は昨日太郎を叩いた。

c1-02-03 テンス未来

c1-02-03-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうなのを想像して）次郎が太郎を叩こうとしているだろう。

c1-02-03-22【動作過程継続】（次郎が叩いている最中であるのを想像して）次郎が太郎を叩いているだろう。

c1-02-03-41【痕跡】（太郎の顔に痣ができているのを想像して）次郎がまた太郎を叩いているだろう。

c1-02-03-51【反復習慣】次郎はこれから毎日太郎を叩くだろう。

c1-02-03-01【完成相】次郎が太郎を叩くだろう。

c2 主体動作動詞（意志的自動詞）

c2-01「遊ぶ」

c2-01-01 テンス現在

c2-01-01-12【動作開始直前】（子供が池に入ろうとしているのを見て）子供が池で遊ぼうとしている。

c2-01-01-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中）子供が池で遊んでいる。

c2-01-01-41【痕跡】（沼地に子供の足跡がある）子供が池で遊んだに違いない。

c2-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日池で遊んでいる。

c2-01-02 テンス過去

c2-01-02-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中であったのを思い出して）子供が池で遊んでいた。

c2-01-02-41【痕跡】（沼地に子供の足跡があったのを思い出して）子供が池で遊んだのだ。

c2-01-02-51【反復習慣】太郎はあの頃毎日池で遊んでいた。

c2-01-02-01【完成相】太郎は昨日池で遊んだ。

c2-01-03 テンス未来

c2-01-03-12【動作開始直前】（子供が池に入ろうとしているのを想像して）子供が池で遊ぼうとしているだろう。

c2-01-03-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中なのを想像して）子供が池で遊んでいるだろう。

c2-01-03-41【痕跡】（子供の足跡があるのを想像して）子供が池で遊んでいるだろう。

c2-01-03-51【反復習慣】子供はこれから毎日池で遊ぶだろう。

c2-01-03-01【完成相】太郎は今日は池で遊ぶ。

c2-02「歩く」

c2-02-01 テンス現在

c2-02-01-12【動作開始直前】（子供が畑に入ろうとしているのを見て）子供が畑の中を歩こうとしている。

c2-02-01-22【動作過程継続】（子供が畑の中を歩いている最中）子供が畑の中を歩いている。

c2-02-01-41【痕跡】（ズボンに泥が付いている）この子はまた畑の中を歩いている。

c2-02-01-51【反復習慣】太郎は毎日5 km歩いている。

c2-02-02 テンス過去

c2-02-02-12【動作開始直前】（子供が畑に入ろうとしていたのを思い出して）子供が畑のなかを歩こうとしていた。

c2-02-02-22【動作過程継続】（子供が歩いている最中であつたのを思い出して）子供が畑の中を歩いていた。

c2-02-02-41【痕跡】（ズボンに泥がついていたのを思い出して）この子はまた畑の中を歩いたのだ。

c2-02-02-51【反復習慣】太郎はあの頃毎日5 km歩いていた。

c2-02-02-01【完成相】太郎は昨日5 km歩いた。

c2-02-03 テンス未来

c2-02-03-12【動作開始直前】（子供が畑の中に入ろうとしているのを想像して）子供が畑のなかを歩こうとしているだろう。

c2-02-03-22【動作過程継続】（子供が歩いている最中であるのを想像して）子供が畑の中を歩いているだろう。

c2-02-03-41【痕跡】（ズボンに泥がついているのを想像して）あの子はまた畑の中を歩いているだろう。

c2-02-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日5 km歩く。

c2-02-03-01【完成相】（自転車が壊れているので）太郎は明日学校まで歩く。

c3 主体動作動詞（無意志的自動詞）

c3-01「降る」

c3-01-01 テンス現在

c3-01-01-12【動作開始直前】（雨粒が2、3滴落ちてきた）今にも雨が降ろうとしている。

c3-01-01-22【動作過程継続】（雨が降っている最中）今日は朝から雨が降っている。

c3-01-01-41【痕跡】（地面が濡れているのを見て）雨が降っている。

c3-01-01-51【反復習慣】このところ毎日雨が降っている。

c3-01-02 テンス過去

c3-01-02-12【動作開始直前】（雨粒が2、3滴落ちてきていたのを思い出して）雨が降ろうとしていた。

c3-01-02-22【動作過程継続】（雨がざあざあ降っていたのを思い出して）雨が降っていた。

c3-01-02-41【痕跡】（地面が濡れていたのを思い出して）雨が降ったのだ。

c3-01-02-51【反復習慣】先月は毎日雨が降っていた。

c3-01-02-01【完成相】昨日は夜中に雨が降った。

c3-01-03 テンス未来

c3-01-03-22【動作過程継続】（雨がざあざあ降っているのを想像して）明日の今頃は雨が降っているだろう。

c3-01-03-41【痕跡】（地面が濡れているのを想像して）明日の今頃は雨が降って濡れているだろう。

c3-01-03-51【反復習慣】来週は毎日雨が降る。

c3-01-03-01【完成相】明日は朝から雨が降るだろう。

c3-02「泣く」

c3-02-01 テンス現在

テンス・アスペクト

c3-02-01-12【動作開始直前】（太郎ちゃんの顔が泣き顔になってきた）太郎ちゃんが今にも泣きそうにしている。

c3-02-01-22【動作過程継続】（泣いている最中）先生、太郎ちゃんが泣いているよ。

c3-02-01-41【痕跡】（頬に涙の跡がついている）太郎ちゃん、泣いている。

c3-02-01-51【反復習慣】太郎ちゃんはいつも泣いている。

c3-02-02 テンス過去

c3-02-02-12【動作開始直前】（太郎ちゃんの顔が泣き顔になっていたのを思い出して）太郎ちゃんが今にも泣きそうにしていた。

c3-02-02-22【動作過程継続】（泣いている最中だったのを思い出して）太郎ちゃんが泣いていた。

c3-02-02-41【痕跡】（頬に涙の跡がついていたのを思い出して）太郎ちゃんはまた泣いていた。

c3-02-02-51【反復習慣】太郎は小さい頃いつも泣いていた。

c3-02-02-01【完成相】太郎ちゃんは昨日友達に叩かれて泣いた。

c3-02-03 テンス未来

c3-02-03-12【動作開始直前】（一人で留守番させていたので）帰った時には太郎ちゃんが今にも泣きそうにしているだろう。

c3-02-03-22【動作過程継続】（一人で留守番させていたので）帰った時には太郎ちゃんが泣いているだろう。

c3-02-03-41【痕跡】（頬に涙の跡がついているのを想像して）太郎ちゃんはまた泣いているだろう。

c3-02-03-51【反復習慣】太郎ちゃんは毎日泣くだろう。

c3-02-03-01【完成相】太郎ちゃんは泣くだろう。

d0 心理動詞

d0-01「思う」

d0-01-01 テンス現在

d0-01-01-23【心理状態継続】早く行こうと思っている。

d0-01-01-51【反復習慣】毎日恋人のことを思っている。

d0-01-02 テンス過去

d0-01-02-23【心理状態継続】あの時は早く行こうと思っていた。

d0-01-02-51【反復習慣】あの頃は毎日恋人のことを思っていた。

d0-01-02-01【完成相】あの時は早く行こうと思った。

d0-01-03 テンス未来

d0-01-03-23【心理状態継続】明日の今頃は早く行こうと思っているだろう。

d0-01-03-51【反復習慣】5年後も毎日恋人のことを思っているだろう。

d0-01-03-01【完成相】5年後もそう思うだろう。

d0-02「怒る」

d0-02-01 テンス現在

テンス・アスペクト

d0-02-01-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを見て）先生は怒っている。

d0-02-01-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しいのを見て）先生は怒っている。

d0-02-01-51【反復習慣】あの先生はいつも怒っている。

d0-02-02 テンス過去

d0-02-02-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っていたのを思い出して）先生はあの時怒っていた。

d0-02-02-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しかったのを思い出して）先生はあの時怒っていた。

d0-02-02-51【反復習慣】あの先生はいつも怒っていた。

d0-02-02-01【完成相】いつもは静かな先生が昨日は怒った。

d0-02-03 テンス未来

d0-02-03-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを想像して）先生は怒っているだろう。

d0-02-03-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しいのを想像して）先生は怒っているだろう。

d0-02-03-51【反復習慣】先生は毎日怒るだろう。

d0-02-03-01【完成相】先生は明日は怒るだろう。

e0 存在動詞

e0-01「ある（存在）」

e0-01-01 テンス現在

e0-01-01-61【一時的状態】ほら、そこにゴミがある。

e0-01-01-51【反復習慣】太郎の部屋には、いつもゴミがある。

e0-01-01-71【恒常的特性】学校の校庭には大きな桜の木がある。

e0-01-02 テンス過去

e0-01-02-61【一時的状態】昨日、ここにゴミがあった。

e0-01-02-51【反復習慣】昔はいつもここにゴミがあった。

e0-01-02-71【恒常的特性】昔、学校の校庭には桜の木があった。

e0-01-03 テンス未来

e0-01-03-61【一時的状態】明日になったら、ここにゴミがある。

e0-01-03-51【反復習慣】（ゴミ捨て場になる予定地を前にして）明日から毎日ここにゴミがある。

e0-02「ある（挙行）」

e0-02-01 テンス現在

e0-02-01-22【動作過程継続】（運動会が開催中）運動会が行なわれている。

e0-02-01-41【痕跡】（運動場に旗が散らかっている）昨日は運動会が行なわれた。

e0-02-01-51【反復習慣】運動会は毎年9月に行なわれている。

e0-02-02 テンス過去

テンス・アスペクト

e0-02-02-22【動作過程継続】(運動会が開催中だったのを思い出して)昨日は学校で運動会が行なわれていた。

e0-02-02-41【痕跡】(運動場に旗などが散らかっていたのを思い出して)運動会が行なわれたのだ。

e0-02-02-51【反復習慣】あの頃は毎年秋に運動会が行なわれていた。

e0-02-02-01【完成相】昨日は学校で運動会が行なわれた。

e0-02-03 テンス未来

e0-02-03-22【動作過程継続】(運動会が開催中なのを想像して)学校へ行った時には運動会が行なわれているだろう。

e0-02-03-51【反復習慣】来年から毎年10月に運動会が行われる。

e0-02-03-01【完成相】明日は学校で運動会が行われるだろう。

e0-03 「いる」

e0-03-01 テンス現在

e0-03-01-61【一時的状態】先生は今、職員室にいる。

e0-03-01-51【反復習慣】先生は、いつも職員室にいる。

e0-03-01-71【恒常的特性】この川にはたくさんの魚がいる。

e0-03-02 テンス過去

e0-03-02-61【一時的状態】昨日の今頃は、職員室にいた。

e0-03-02-51【反復習慣】昨日までは、毎日職員室にいた。

e0-03-02-71【恒常的特性】昔は、この川にはたくさんの魚がいた。

e0-03-03 テンス未来

e0-03-03-61【一時的状態】明日の今頃は、職員室にいる。

e0-03-03-51【反復習慣】明日からは毎日、職員室にいる。

f0 形容詞

f0-01 「赤い」

f0-01-01 テンス現在

f0-01-01-61【一時的状態】おや、顔が赤いよ。どうしたの。

f0-01-01-51【反復習慣】太郎の顔はいつも赤い。

f0-01-01-71【恒常的特性】椿の花は赤い。

f0-01-02 テンス過去

f0-01-02-61【一時的状態】さっき、顔が赤かったよ。どうしたの。

f0-01-02-51【反復習慣】子供の頃、太郎のほっぺたはいつも赤かった。

f0-01-02-71【恒常的特性】昔のトマトは赤かった。

f0-01-03 テンス未来

f0-01-03-61【一時的状態】(外は寒いので)帰ってきた時には太郎のほっぺたは赤いだろう。

f0-01-03-51【反復習慣】太郎のほっぺたはいつも赤いだろう。

テンス・アスペクト

f0-02 「寂しい」

f0-02-01 テンス現在

f0-02-01-61【一時的状態】（今日は一人で留守番をしているので、私は）寂しい。

f0-02-01-51【反復習慣】（一人暮らしを始めたばかりなので、私は）毎日寂しい。

f0-02-01-71【恒常的特性】山道は寂しい。

f0-02-02 テンス過去

f0-02-02-61【一時的状態】（昨日は一人で留守番をしていたので、私は）寂しかった。

f0-02-02-51【反復習慣】（一人暮らしを始めた頃のことを思い出して、私は）あの頃は毎日寂しかった。

f0-02-02-71【恒常的特性】昔このあたりは寂しかった。

f0-02-03 テンス未来

f0-02-03-61【一時的状態】（明日は一人で留守番をするので、私は）寂しいだろう。

f0-02-03-51【反復習慣】（来月から一人暮らしを始めることを話題にして、私は）しばらくは毎日寂しいだろう。

f0-03 「静かだ」

f0-03-01 テンス現在

f0-03-01-61【一時的状態】（学校が休みなので）教室はとても静かだ。

f0-03-01-51【反復習慣】（おとなしい生徒が多いので）この教室はいつも静かだ。

f0-03-01-71【恒常的特性】この辺は静かだ。

f0-03-02 テンス過去

f0-03-02-61【一時的状態】（学校が休みだったので）教室はとても静かだった。

f0-03-02-51【反復習慣】（先月は夏休みだったので）教室は毎日静かだった。

f0-03-02-71【恒常的特性】昔はこの辺は静かだった。

f0-03-03 テンス未来

f0-03-03-61【一時的状態】（教室に誰もいないのを想像して）教室はとても静かだろう。

f0-03-03-51【反復習慣】（来月は夏休みなので）教室は毎日静かだろう。

g0 名詞

g0-01 「小学生だ」

g0-01-01 テンス現在

g0-01-01-61【一時的状態】太郎は今小学生だ。

g0-01-02 テンス過去

g0-01-02-61【一時的状態】太郎は去年まで小学生だった。

g0-01-03 テンス未来

g0-01-03-61【一時的状態】太郎は来年小学生だ。